

『ないてわらって豚ホルモン』  
上映会 12月11日(日)

ららばい協会「ねぎぼうず」の拠点である下仁田旧西牧小学校で「町映画」の上映会がありました。

「豚ホルモン」舞台は群馬県高崎、私たちが日頃愛食している牛のホルモン焼きを豚を使い群馬県のソウルフードとして定着した「豚ホルモン」発祥からさらに世に広めるために作られた映画です。出演者は市民参加型、群馬県在住の方を中心に広くオーディションで選ばれた皆さまです。創業者の故井上敏光氏の実話を軸にしています。

現代と過去を交差させる青春ファンタジーとして制作されました。かつての宿場町として栄え、宿であった老舗「坂口屋旅館」もその風情のまま、撮影現場となっています。

「ねぎぼうず」のある、この本宿の最盛期は戦後まで栄えていました。町には映画館や劇場があり、宿屋や歓楽地が



12/11日 旧西牧小学校で上映

日時：12月11日(日) 13:00～  
人数：先着50名  
料金：500円  
場所：旧西牧小学校  
提供：下仁田協賛株式会社



映写室の横では豚まんじゅうと豚汁、しゅうまいのご接待



上映会の様子

あり、市が立ち、人の往来で大いに賑わいをみせていたのです。馬のひづめの音やいななきが聞こえていたことでしょうか。歴史は大きく後退しているように見えますが、この昔の魂に呼び覚まされたように、町映画も出来上がりしました。この上映も町の発展の大きな起爆剤となると思います。

当日は映画だけではなく、「豚まん」などの販売や子どもたちと一緒に作る料理教室などの企画も用意させていただき、大好評をいただきました。空っ風の群馬の寒さはことのほか厳しいとか、あたたかな衣類や、手軽なバッグなどの販売や小さなバザーも開催いたしました。

本格的な冬を迎え、あたたかな「暖まごころ」を「ねぎぼうず」からお届けすることができました。

親子で一緒に雪遊び

ウインターキャンプへのお誘い

白い世界で思いっきり遊びませんか？ と言ってそんなチャンスはなかなかありません。そこで小さなプレゼントの企画をご案内させていただきます。この冬の遊びのご予算のない方たち、ひとり親家庭でのお子さまの遊びの計画にお困りの方たちを対象に、親子で一緒に雪遊びにご招待させていただきます。

- 【主催】 国立赤城青少年教育振興機構 赤城青少年交流の家
- 【会場】 国立赤城青少年交流の家 群馬県前橋市富士見町赤城山27
- 【対象】 ひとり親家庭(子ども3歳～12歳までとその保護者)
- 【日時】 2023年2月4日(土)～翌5日 一泊二日
- 【送迎】 下仁田道の駅集合 又は 現地集合
- 【お申込み・お問合せ】 日本ららばい協会  
電話 03-6458-0283  
Fax 03-6458-0284  
Eメール info@komoriuta.jp

尚、御参加の皆様には決定次第詳しい詳細をお知らせいたします。ふるってご参加ください。



ねぎぼうず

新聞 vol.04 2023 Newyear



戦いすんで目がくれて  
そして明日へ

少子化で廃校が増え、何とかこの施設を有効に使えないか、と言う声は高くなっています。

私もも、緑の中に置き忘れられたように立つ旧西牧小学校を見て、淋しく泣いているように見え、ここに人々の声がかたまり、子供たちの遊ぶ姿を呼び戻せたらと夢を持ちました。

しかし、教育機関で使われた建物をなんにでも自由に使うことは出来ません。なんと開校するには難関が多くあることをかと思ひ知らされました。これは大きな誤算でした。

色々と規制があり、その上に耐震、防火、防犯、水質検査、使用目的等の検査と許可まで、ゆうに三か月を要しました。くじけそうになりながら、そればかりで

なく、仕事に関わる仲間の造反や、途中で投げ出す人などが出て、人間の危うさや不信感というのも勉強させられました。新しいことをするにあたり、志を共にし、くじけず実行する行動力と、お互いの信頼を培うには常に大きな試練との戦いから、まあ、覚悟せざるを得ませんが、子供たちが大優先、次いでその子供を産み育てる母親支援の基本は、大きな自立というハードルを越えなくてはなりません。実現する勇気と努力、さりげなく生きる知恵、を自発的に持たなければならぬと考えて、自然の中の女性村設立です。

そんな女性が集まればこれは大事業です。決して上からの目線にならず、そんな女性の応援が私たちの仕事でした。米国コカコーラの支援はさらに多くの仲間を呼ぶ

結果となりました。嬉しいことに無条件で応援して下さいの方や、たくさんの企画や、アイデアが持ち込まれました。私たちはその心に感謝し、共に実現に向けてこれからも「ねぎぼうずプロジェクト」を進めていきたいと考えています。



シングルマザーのひとりとして

私も離婚でシングルマザーになりました。子どもは二人、上は中学生、下は小学五年の女の子二人です。

夫の養育費は係争中でまだもらっていないので、ららばいさんの配食に伺っています。行く度に自立できるの？と聞かれるのですが、仕事もありませんし、貯金を崩して、バイトして不安とで笑いもなくなりそうですから、自立なんて言われても答えられません。

その日を送るのが精いっぱい、ダンダン外に出ていく気力もなくなりました。困って

地元下仁田での町役場や住民の皆様への応援や励ましの中で、「母と子のユートピア」を創っていきます。どうか、眼を凝らしてみてくださいませ。

来年は母子の相談室子ども駆け込み寺など充実させていくため、準備に入りました。

また、肝心の「農」の自立を目指して女性の募集もしてまいります。明日の夢にむかっていきます。

いることは、と言われますが、仕事が無いのとそれに伴う収入がないのが一番。ハローワークも看護とか、パートぐらいしかちゃんとしてくれません。正直、どうしてこれから生きて行くのか、元旦那の収入も今失業中で養育費は分かりませんが、だいいち、子どもだいたいと言われても子どもに目は行きませんよね。母親って重すぎます。いつも、結婚するんじゃないかって後悔ばかりで生きて行くのは、自分でもいや、何とかしてください。

【葛飾区在住A子34才】



# 雷さまと空っ風そしてかかあ天下

## 下仁田のわらべ歌

群馬の冬は厳しい。厳しい中で生き抜く子ども達。山がそびえ、夏は南東の風が吹き、一挙に上がる気温に雷が発祥します。

冬は三國連峰から雪を運び冷たい風が乾いた風となって吹き荒れます。上毛にそびえる三山、赤城山、榛名山、妙義山から吹いてくる風を赤城おろし、榛名おろし、妙義おろし、と名付けて呼ぶのは、それほどの独特な寒風、乾風という事なのでしょう。

「かかあ天下」は養蚕や絹織物、ほとんどが女性の仕事、上州女の経済力により女性の家庭を支える力を誇示したところから生れてきた呼び名な様です。上毛、歴史の深い風土の中での下仁田のわらべ歌

『ひやっぱんぼん』

ひやっぱんぼん  
いちここにこなめたか 十文字  
そらぬけた 下仁田町岩山

子ども達が輪になり、右手のこぶしをだし、輪に入ったら順々にこぶしを出し、歌の終わりにあたってものが鬼になって次々にこうたいしていく。鬼キメうた

『でいじな天道さま』

でいじな 天道様  
誰がかくした  
雲めがかくした  
早くださねと  
はさみでちょん切るぞ  
下仁田町仲町

『生きろ生きろ』

生きろ生きろ  
さかさ水くれるから  
生きろ生きろ  
下仁田町

魚とりで釣り上げた魚がバケツでバクバクしている時、魚を川にもって行って、魚をさかさにして水を飲ませる。そうして生き返らせる。はやしうた

だれかさんの頭に  
ごみがある  
それを落とせば 禿になる  
甘楽郡下仁田南牧村

男女が一緒に遊んでいるとこんな歌でからかった

結局、2000年に退職し、一軒の家を借りて、「ゆいの家」という名前前で不登校や障害を持ったお子さんのお母さんたちの居場所を始めました。毎月1回ペースでしていたミニ講演会もどんどん増えていきました。2013年12月には、350回になりました。

本当にお呼びした方のジャンルはいろいろで、自分がいいと思った方、会いたいと思った方です。不登校関係の方から心の病をもった方をサポートしている方、ドヤ街をサポートしている方、自然農をされている方、タイのお坊さん、そして先程の朝倉千恵子さんの企業セミナーなどもしました。

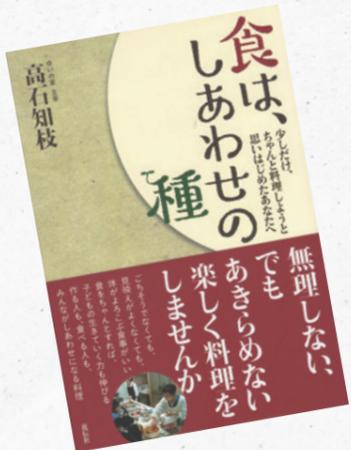
活動を始めて10年目の記念に本を作ることにしました。書き始めて間もない頃、それまでずっとやりたいことをさせてくれていた主人が、急性骨髄性白血病ということがわかりました。そして、本ができ上がった時は闘病生活でした。その本のタイトルを悩んだ末、

「何があってもだいじょうぶ」

「ゆいの家」の出会いから学んだこと

にしました。当時は、この先主人がどうなっていくのか全くわからない状態でした。それまで全く収入のない生活をしてきていたので少しでも稼がなくちゃと、居場所的なことはやめてランチのお店をしたりしましたが、2008年に主人が亡くなりました。

当時、長男は高三、長女は高二でした。教員に復帰して講師として働くことが一番安定した道でしたが、私はそれまでの



出会いと学びから「食」を自分の仕事として選びました。はたから見ればどうしていくんだろうときっと思われていたと思います。今振り返れば、やっぱり「何があってもだいじょうぶ」だったと言えます。何があっても自分が「だいじょうぶ」と思い続けることができればだいじょうぶなのです。その後どんなことがあったのか、次回につなげたいと思います。

### report 活動報告

#### 女性村 記者会見 10月26日(水)

10月26日の下仁田での記者会見は本当に嬉しいものでした。

上毛新聞、読売新聞、産経新聞、そしてこの11月8日の東京新聞夕刊では、一面に下仁田女性村の記事が掲載されました。

上州女と空っ風・・・楽しくたくましく門出ができます。多くの女性たちと子

### column

#### 自炊塾 ゆいの家

主宰 高石知江

「食はしあわせの種」という本を花伝社から出させていただいた高石知江です。私は、食はすべてをつなぐしあわせの種であり、食に対する向き合い方がその人の生き方にもつながっていると思っています。らばい通信を編集されている西館さんとは、「食はしあわせの種」の本の中の「刊行に寄せて」を書いていただいた朝倉千恵子さんの部下のAさんから教えていただきました。

Aさんに東京でお会いした時は、その会社をすでに辞められていたのですが、最後の仕事として朝倉社長と西館さんの対談の企画をしたそうです。

「西館さんと言って、昭和15年生まれの方だけど、すごく素敵でパワフルな女性の方で、なんでも群馬の下仁田の廃校を使って何かされるそうよ。その方と高石さんもつながるといいと思うよ」と話してくれました。



原町長と西館理事長に質問せ

家に戻って早速朝倉社長と西館さんのユウチューブの映像を見て、すぐにこの方に会ってみたいと思いい、まるでラブレターを送るつもりで手紙に自分の自己紹介や今やっていることを一生懸命書いて、これまで書いた通信や「食はしあわせの種」の本も一緒に送りました。かなり分厚いものになりました。返事は期待せず、とにかく想いだけは伝えたいそんな気持ちで

#### ピアノとヴァイオリンのコンサート「フジ」の部屋にて 11月13日(日)

曇り空に紅葉がよりはえてる13日、日曜日の午後、下仁田ねぎぼうずのフジコ・ヘミングさんの部屋：満員の観客の前で、二回にわたりねぎぼうず最初のイベント「ピアノとヴァイオリンの演奏会」が開催されました。

ピアノは後藤泉さん、ヴァイオリンは平澤仁さん、静かな中でフジコさんのピアノの音はあくまで優しい音色です。「ずっ



客はいっぱい、2回公演となりました

とピアノの前に座っていた「ピアノ」と泉さん。ずっと以前にフジコさんとのジョイントの申し入れを都合付かず実現できなかったと思いい出を持つ平澤さん。素晴らしい演奏会でした。こころ洗われるイベントと好評の声がたくさん聞こえました。これからも様々な形で参ります。

#### 【出演者プロフィール】

- 後藤 泉 Izumi Goto ピアノ  
桐朋学園大学ピアノ科卒業、アンサンブル・ディプロマコース修了。ウィーン・フィル首席奏者と多数共演するほか、ベートーヴェンのピアノソナタ及び交響曲(リスト編ピアノ版)をライブワークとし、音楽の魅力を広く分かち合いたいと活動を続けている。  
<https://www.izumigoto.com/>
- 平澤 仁 Jin Hirasawa ヴァイオリン  
5歳よりヴァイオリンを始め、1981年東京芸術大学音楽学部に入学。1985年第54回日本音楽コンクールに入選。1986年ジュリアード音楽院に留学。1988年東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任。2009年よりその経験を生かした客演、ソロ活動に専念。  
<http://j-musik.com/jinvn/>

